

①データ集約システム



基盤となるデータの整理・集約

行政内で保有するデータを中心に各主体の保有する情報の整理・集約を行い、

- ・「現状分析（見える化）による地域におけるニーズや課題の抽出」
- ・「様々な主体が持つデータを集約・共有し、多主体間が連携したサービスの提供」
- ・「本人や家族が地域で安心して暮らしていくための情報提供」

を実現するためのデータベースシステムを構築。

②データ分析システム



データの見える化/分析・解析

集約されたデータを基にグラフや表，地図情報等を活用し多角的な分析を行うことで、

- ・地域や人の状況，取組み，課題など現状の分析・評価
- ・エビデンスに基づく施策の企画・立案
- ・施策効果測定のための指標設定と成果の見える化

を図り，地域ごとのニーズと供給される施策・サービスの最適化を実現。

福岡市地域包括ケア情報プラットフォーム

③在宅連携支援システム



多職種連携システム「ケアノート」による医療・看護・介護の連携

例えば・・・，

- ・高齢者の自宅に置かれたタブレット型端末を通じて，多様な主体が情報を伝達・共有し，ご本人に効率的・効果的なサービスを提供
- ・また，医療機関では施設内のパソコンから「ケアノート」を参照し，ご本人の状況を把握し，必要に応じて訪問診療を実施
- ・遠く離れたご家族も，自宅のパソコンからケア状況やバイタルを確認しご本人を見守るとともに，必要に応じて各事業者と情報を交換

④情報提供システム



地域で安心して暮らしていくための情報提供

住み慣れた地域で尊厳のある暮らしを継続していくため，本人や家族，地域，各事業者に対し，Webサイトを通して必要な情報をタイムリーに提供していく。具体的には、

- ・地図情報と連動し，地域における社会資源情報（医療機関・介護施設・生活支援サービスなど）の検索・照会機能を提供
- ・行政内に蓄積されていない“配食サービス”や“買い物支援サービス”などのインフォーマルケアサービスについては，サービスの提供主体自らがWebサイト経由でサービス情報の登録・更新を行い，情報の収集と公開を同時に実現